

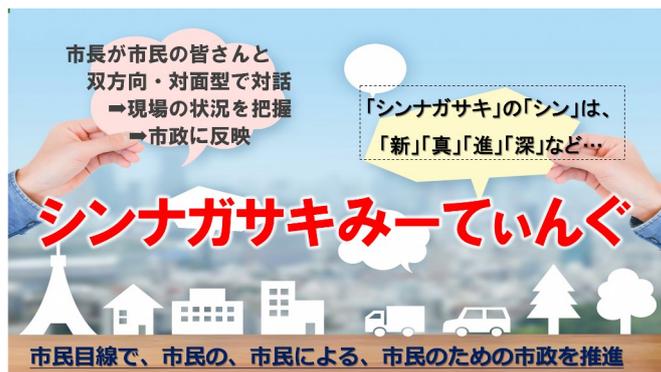
シンナガサキミーティング開催レポート

i n 茂木小学校区



令和6年6月22日（日）、コミュニティ連絡協議会、地域おこし団体、地元事業者、中学校生徒会など16人の皆さんにお集まりいただき、茂木小学校区の「シンナガサキミーティング」を開催しました。

自己紹介では、茂木地区を盛り上げるために若い世代が中心となって開催している「茂木花火大会」についてや農水産物の生産者として考えていること、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①市街化調整区域の土地利用について

市街化調整区域が多く、何も使われていない状態のところがある。農業や住宅地など、どちらにもできない状況にあるようなので、そこを変えていただくと、人口減少問題の解決にもつながると思う。

市の考え方
回答

市街化調整区域については、原則、市街化を抑制する区域として土地利用に制限がかかりますが、一定の条件を満たす（農業・漁業・林業従事者のための建築物等）ものであれば土地利用が可能となる場合もございます。

また、令和4年1月には、一定の条件を満たす場合は、5000㎡以上の住宅団地開発を可能とする地区計画の運用基準を策定し、令和6年3月には、5000㎡以下の住宅団地開発についても、一定の条件を満たす場合において開発許可の対象とするなどの見直しを行うことで、市街化調整区域における土地利用の規制を緩和しております。

②びわ生産者への支援について

びわのブランド強化や販路拡大など生産者が稼げるようなシステムをつくってほしい。1年に1回しか収穫できず、その維持管理に苦労している。

市の考え方
回答

びわは、長崎市が全国に誇るブランド果実であり、本市においても、JA等と連携しながら、生産から販売に至るまで様々な取り組みを行っています。生産面では、作業を省力化できる有機質資材、苗木、収穫時の鳥類追払機器及び集出荷場の出荷検査設備の導入に係る支援、県と協調した寒害対策の簡易的なハウスの整備に係る支援等を行っています。

販売面では、JA・県・びわ生産者とともに、「長崎びわ産地活性化推進協議会」を組織し、市民の皆さんにびわを消費していただくことを目的として、毎年「びわフェスタ」を開催しています。引き続き生産者や関係機関と連携した取り組みを進めていきます。

③びわなどの加工場について

茂木地区に加工場をつくってほしい。びわをはじめ、柑橘類やたけのこなどを年間通して加工できるようになると、まちも活性化すると思う。もぎたて新鮮市をリニューアル含め検討してほしい。

市の考え方
回答

加工場の建設につきましては、設置場所の許可、必要な規模や設備、整備費用及び活用できる支援制度など様々な課題について、地域の方々、市及び県等各々の部署や関係者が複数関連するため、地域の皆様方と広く連携して協議を進める必要があります

また、もぎたて新鮮市内での加工所の設置につきましても、施設管理者との調整のほか、必要とする設備、事業主体、施設の利用形態など様々な検討事項がありますので、地域の皆様方と関係者が連携して協議を進める必要があると考えています。

そのほか、「茂木バイパスの整備促進を図ってほしい」、「もぎたて新鮮市に地元のおいしい魚をもっと置いてほしい」、「公園の遊具を増やしたり、ボール遊びができる公園を増やしたりしてほしい」、「空き家の有効活用を考えてほしい」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。



鈴木市長のひと言

中学生から子育て世代を中心に、これからの地域を担う方中心にお集まりいただき、さまざまな観点からご意見をいただきありがとうございました。

若い世代の方が主体的に地域に貢献しようと活躍されていることが分かり、今後ますます茂木地区が発展することに期待したいと思いました。



参加者からの感想

私たちが毎日楽しく暮らせているのは、地域の方々のおかげだと改めて気付かされました。

茂木の人達と市長、みんなで話し合う場を設けてくれたことに感謝です。様々な立場から多様な意見が出たのでとても良かったです。

農業の立場からの意見を話すことができ、市長の農業者に対する理解も嬉しかった。

若い世代のしっかりとした意見を聞けて、頼もしく感じました。

